

2019Japan National Team Report ” コーチ ”



J.O.D.A.
JAPAN OPTIMIST
DINGHY ASSOCIATION

報告者氏名	後藤浩紀
大会名	アジア・オセアニア選手権
開催地	オマーン・ムッサナー
大会期間	2019/9/30-10/7

- 帰国後1ヶ月以内に、JODAチームでまとめた上、海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA理事会にて確認の後に、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 1. このレポートを補足する資料として必要です(文中に貼り付けて下さい)
 2. 他国OP艇を接近して撮影する際には、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

チャーター艇メーカー	ブルーブルー	Zou marine	Winner		
------------	--------	------------	--------	--	--

気象について	日中は35°ほどになる高温は覚悟していたが、湿気が予想以上だった。外の蒸し暑さと建物内の強烈な空調による気温差が激しく、身体が馴染むのに時間がかかった。
海面(湖面)の特徴や風の傾向	朝凧から11時頃に徐々に風が入り始め、15時頃をピークに落ちるパターン。風向は北東から東で非常に安定している。風速は10-13ノットだが、暑いので数字よりも風が軽い。波は想像以上に高く、夜のうちに風が落ちなかった日の翌日は2mほどの大波に苦労した。
帆走指示書内容で特記事項	内容には特に変わったことはないが、SIが準備されたのがレース前日だったのには驚いた。
コーチポートについて	VSR5.8Rが割り当てられて運が良かった。シェアしたマレーシアが2艇しか連れてきていなかったのだが、その2艇がどちらもトップレベルで、一緒に練習できたのも運が良かった。

以下、日本チームより上位の選手、国について記入して下さい

選手の特徴、体格	体重40キロ未満の小さい子が多い。見た目はBクラスのような体格なのに、ハンドリングの巧みさと膝裏からのストレートハイクでぐいぐい前に行く。特に上位を席卷したタイチームのスピードは他を圧倒していた。
艀装品について	上位陣はメインシートが細い。5mmの子もいて驚いた。8mmや10mmはない。セールはワンが最も多く、次にJセール。ただし優勝したタイの子はノースジャパンだった。
セッティング等	昔のようにハイレキで乗る子がいなくなった。ブームは平行か、僅かに下がっている。上位の子はブームエンドがガンネルから20センチ以上入っているの、相当メインシートを引いているはず。
海上での練習方法	レース前のルーティンで、左右に分かれて同時にタックし、どっちの海面が伸びるかをチェック。さらに一度クロスして、風の違いなのか、スピードの違いによるものかも確認していた。
セーリング技術	速い選手は波のトップでの上半身の使い方が上手い。一瞬の風の増加を使い少しずつでも確実にバウを出して行く。12ノットあたりではほとんどメインシートは動かさず、ティラーとキネティクスだけで走らせていた。相当乗り込まないと、あのレベルにはなれない。
戦術、戦略など	シリーズのライバルになると見なすと、早い段階から積極的に相手にしかけて、プロテストできっちり失格にしてきたのには驚いた。
日本選手が劣っていること	風が安定している分、スタートが普段以上に重要だと説き、積極的に前に行くように伝えていたのだが、それが初日の大量リコールにつながってしまった。混雑した中でもきっちり自分の位置をキープし、20秒を切ってもショートタックで下のフリーウォーターを確保するこだわりとテクニックが必要だ。
日本選手が勝っていること	レース以外の海上・陸上での振る舞い。きちんと挨拶をする、ゴミを拾う、他国の出着艇を手伝う等の行動をベストチームだと絶賛された。
日本チームとしての課題	混戦を抜け出すスピードとテクニック。ここぞという時のスーパーハイク。スタートから1分までで勝負の大半は決まっているのに、そこに残れていない。
JODAへの要望	特になし。
その他	結成から解散まで子供も大人も仲が良く、最高のチームだった。成績はそれほど残せなかったが、それぞれがこの経験を糧に次のステージで羽ばたいてくれると確信している。

ご協力ありがとうございました
JODA海外派遣委員会